

古代山城とまちづくり

—古代山城サミットをとおして—

福岡県大野城市企画政策部

歴史をつなぐ事業推進室

舟 山 良 一



平成25年8月31日

サンクリスタル高松

【目次】

- I. はじめに
- II. 大野城市の概要
 - (1) 位置と環境
 - (2) 人口と面積
- III. 大野城市の文化財
- IV. 史跡の活用

I. はじめに

「史跡を活かしたまちづくり」と言う場合、文字通り史跡とその周辺を整備して市民の憩いの場とするような、いわばハード的な整備事業を思い浮かべることが多い。倉敷のように古い町並みが残る場所を整備する場合などが典型的である。しかし、福岡県大野城市ではハード的ではなく、ソフト的な意味での「史跡を活用したまちづくり」の取り組みを行ってきている。そのシンボリックな取り組みは「古代山城サミット」(註1)である。今回、サミット開催に至る経過、そしてその後の取り組みについて紹介したい。

II. 大野城市の概要

(1) 位置と環境

福岡県大野城市は福岡市と太宰府市の間に位置しており、昭和47年に市制を敷いた。町時代は大野町といていたが、市になるに際しては、福井県に既に大野市があったため、市名の一般公募を行い、市名策定委員会での協議の結果、『日本書紀』に天智四年(西暦665)築造と記載されている特別史跡大野城跡の名をとって大野城市とした。市名に史跡名を冠する市は宮城県の多賀城市や京都府の長岡京市、福岡県の太宰府市、佐賀県の吉野ヶ里町などがある。

市の東側に特別史跡大野城跡のある四王寺山塊があり、南部には兵庫県以西では最大規模を誇る須恵器窯跡群である牛頸窯跡群が所在する牛頸山を中心とする山間部があり、中央部を御笠川が博多湾に向かって流れ、その両岸に平野部を造り出している。平面形はひょうたん型をしていて南北に細長い。

(2) 人口と面積

人口は平成25年6月末現在98,440人で、毎年800人ほど増え続けている。面積は約26.88平方キロメートルと小さい。高松市のおよそ14分の1である。

Ⅲ. 大野城市の文化財

大野城市には国の史跡3件、県指定文化財3件、市指定文化財13件（14種）ある。国の史跡には市名の由来ともなっている特別史跡大野城跡、特別史跡水城跡、史跡牛頸須恵器窯跡がある。大野城跡は前述したとおり、『日本書紀』に天智四年（西暦665）に築造されたと記されている朝鮮式山城であり、水城跡は同じく『日本書紀』に天智三年（664）に築造されたと記されている長さ1.2km、幅80m、高さ13mの土塁と幅60m深さ4mの濠からなる大遺構である。さらに牛頸須恵器窯跡は古代の焼き物である須恵器（すえき）を6世紀中ごろから9世紀前半頃まで焼成した大窯跡群である。想定基数は500基であり、この規模は九州のみならず兵庫県以西で最も大きい。

県指定文化財は室町時代の仏像の雑餉隈聖観音像、近世以前の井戸である筒井の井戸、近世文書である竹田家所蔵文書の3件である。

市指定文化財は14種類13件である。考古資料の貨布は中国「新」代（西暦8～25年）の農具をかたどった青銅製貨幣で、発掘調査で見つかった例として極めて珍しい。

このように地理的位置を反映して朝鮮半島、中国大陸の文化に関連する遺構遺物など面積の小さい割には多くの文化財に恵まれたまちである。

Ⅳ. 史跡の活用

先述したように古代山城（註1）サミットを中心に述べたい。

平成18年3月と10月に市民団体である「大野城市まちづくり懇談会」から、市長あてに市名の由来ともなっている大野城跡を市民共通の財産として守り伝えながら、まちづくりに活用していくために古代山城が所在する自治体どうしで連携して「山城サミット」を開催するようとの提案がなされた。市長の施政方針とも合致していたため、市長から関係各課に検討するよう指示が出された。

文化財担当課であるふるさと文化財課にはその前から大野城跡の活用について研究するよう指示があったため、古代山城所在自治体に活用方法等について電話での問い合わせを行っていた。その過程で山口県光市が古代山城の一つである岩城山（いわきさん）神籠石を活用して「神籠石サミット」を企画していることを知った。ほぼ同時に2つの市が同様な企画をした訳である。しかし、光市はすでに平成18年度中の開催を予定して他の自治体に呼びかけを進めていた。ただ、神籠石サミット対象自治体は史跡名称に神籠石という言葉が含まれている9市のみであることが本市の計画と違っていた。そして、大野城跡は屋島城と同じく朝鮮式山城であり神籠石ではないため、本市はその条件には当てはまらなかった。ただ、本市の考えを説明し、オブザーバーとして1回目から

出席させていただいた。

第1回目は光市で平成19年2月に多くのマスコミの注目を集め盛大に開催された。第2回目は平成19年秋にやはり光市で、第3回目は平成20年秋に行橋市で、第4回目は平成21年秋に久留米市で開催された。

本市は神籠石サミットに出席しながら、近い将来朝鮮式山城と神籠石系山城すべての所在自治体で開催する古代山城サミットを目指して準備を行った。ちなみに関係自治体は31になる。平成19年度に公募市民とまちづくり懇談会会員からなる山城サミット準備委員会を立ち上げ、翌20年2月に古代山城サミット実施の答申を受けた。これを受けて、同年5月に市長を名誉顧問として文化連盟、体育協会、商工会、小中学校校長会、その他市内の多くの団体から推薦を受けたメンバーによって古代山城サミット実行委員会が設立された。

大野城市が目指したものは史跡を守り伝えるだけではなく、新たな伝説・文化を創造しようとしたことである。その1つは7世紀、父が百済救援軍に召集され帰らなかったタスケを主人公にして、大野城を造る倭の人たちと亡命百済人との苦労と絆を描いた『大野城物語』の創作、もう1つが「大野城の響き」で、基本リズムからすべての市民が踊ったり、また中学校を中心にして体育会などで舞ってもらおうとする「大野城の舞い」を作ろうとしたことである。『大野城物語』は九州大学名誉教授の西谷正先生の監修を受け、また先生の「大野城の築造とその背景」という論考も載せ販売をした。この時いっしょにイメージキャラクターとして、石垣をリーゼントに組み込んだ大野ジョーを作製した。そして、今年春には『大野城物語』漫画版を刊行した。

また、古代山城サミットそのものについては、先行した神籠石サミットも参考にしながら、韓国の国家的事業とも言える百済文化祭の視察、子どもの参加について学ぶために沖縄や壱岐の施設やまつりの視察を行った。サミットを1回きりのイベントにするのではなく、史跡をまちづくりに活かすためには継続することを重要であるが、この点で特に重要なのが学校教育に大野城跡や水城跡の郷土学習として取り入れてもらうことであった。まずモデル校としていくつかの小中学校に依頼して大野城跡の学習とサミット当日の成果発表をしてもらうことにした。そのほか学術的なシンポジウムは朝鮮考古学専門の西谷正先生と韓国で山城の研究をされている元東亜大学校学長の枕奉謹先生、そして日本人ながら韓国名の芸名を持つユミン(笛木優子)さんをパネラーとした。

その他、伝統芸術の交流ということから、古代山城サミット関係自治体にあるさまざまな芸能保持団体とも交渉し、可能な範囲で来ていただいた。韓国光州市の大韓民国忠壮芸術団の華麗な演舞も舞っていただけることになった。

古代山城サミットは、大野城市で 20 年以上継続してきた市民まつりの大文字まつりと連動させるため、金曜日に首長会議、土曜日に市民参加のサミットと子ども参画型のまつり、そして日曜日に今までの大文字まつりという 3 日連続事業とすることになった。

大野城市は山城サミットにオブザーバーとして参加しながら、構成メンバー市に対し神籠石所在地に限らずに朝鮮式山城所在自治体も含めた古代山城サミット開催を呼びかけた結果、平成 21 年秋に久留米市で行われた第 4 回神籠石サミットの席上、翌平成 22 年秋には大野城市で古代山城サミットを開催することが了承された。

該当する自治体に対しては、実行委員会と事務局員からなる親善大使の派遣を行い、参加を呼びかけた。

この結果、大野城市で平成 22 年 9 月 24 日（金）、25 日（土）に第 1 回古代山城サミットを開催することができた。参加自治体は該当する 31 のうち 22 自治体であった。文化庁調査官からは、さまざまなサミットが開催されているが、自治体首長の出席率が非常に高いというお褒めのことばをいただいた。

古代山城サミットを開催することができたが、前述のように 1 回きりのイベントで終わらせるのではなく、継続してまちづくりに活用していくことを開催の趣旨の 1 つにしていたことから、古代山城サミット実行委員会は平成 22 年度の末に解散したが、翌 23 年には趣旨を受け継ぐ古代山城関連事業推進協議会を発足させた。そして市内 15 の小中学校へのふるさと学習補助金、ボランティア養成講座である山城楽講の開講、ゆるキャラの大野ジョーグズの製作、そして持ち回りで開催される古代山城サミットへの参加などを行いながら、特別史跡大野城跡、水城跡の周知を図り、市民共通の宝としてまちづくりに活用していくことを目指している。

現在の取り組みは、水城・大野城が造られてから平成 26 年（2014 年）、27 年（2015 年）が 1350 年目に当たることから、本市だけではなく、太宰府市、筑紫野市、春日市、宇美町、佐賀県基山町、福岡県、佐賀県とともに「水城・大野城。基肆城 1350 年事業」と銘打ってシンポジウムや現地でのイベント、遺跡マップの作製や写真展など多くの計画をしている。

また、本市独自でも平成 24 年 4 月の「歴史をつなぐ事業推進室」の設置、歴史と子どもと観光をキーワードにした大野城心のふるさと館の整備、大野城跡への登山路（仮称歴史をつなぐみち）整備を行っている。大野城築城 1350 年になる 2015 年（平成 27）にあまり遅れずに竣工オープンを目指している。

水城跡や大野城跡などの史跡を市民共通の財産として認知されることは、大野城市民としてのアイデンティティ形成、そして地域のコミュニティ形成に役立つと考えられる。日

ごろからコミュニティが形成されている地域は災害時の情報伝達や避難の際の声かけ、そして災害後の助け合いなどもスムーズに行く場合が多いことがマスコミ報道等でも知られていることである。

以上、ハード的ではない、ソフト的な意味での史跡を活かしたまちづくりについて述べた。これらの取り組みは効果が見えにくい分野でもあり、継続と多くの市民の協働が必要である。自治体どうし情報を共有しあって前進していきたい。

〈註1〉古代山城には朝鮮式山城と神籠石系山城の2つがある。基本的な違いは朝鮮式山城が『日本書紀』などの文献資料に現れるもの、神籠石系山城は記録に現れないものである。大野城や屋島城は朝鮮式山城である。

古代山城所在地

朝鮮式山城

図面記号	山城名	府県名	都市名
A	高安城	大阪府	八尾市
		奈良県	平群町
			三郷町
B	屋嶋城	香川県	高松市
C	大野城	福岡県	大野城市
			太宰府市
			宇美町
D	基肄城	佐賀県	基山町
		福岡県	筑紫野市
E	鞠智城	熊本県	山鹿市
			菊池市
F	金田城	長崎県	対馬市

神籠石系山城

図面記号	山城名	府県名	都市名
1	城山城	兵庫県	たつの市
2	大廻小廻	岡山県	岡山市
3	鬼ノ城	岡山県	総社市
4	城山	香川県	坂出市
			丸亀市
5	永納山	愛媛県	西条市
			今治市
6	石城山	山口県	光市
7	唐原山城	福岡県	上毛町
8	御所ヶ谷	福岡県	行橋市
			みやこ町
9	鹿毛馬	福岡県	飯塚市
10	阿志岐城	福岡県	筑紫野市
11	雷山	福岡県	糸島市
12	杷木	福岡県	朝倉市
13	高良山	福岡県	久留米市
14	女山	福岡県	みやま市
15	帯隈山	佐賀県	佐賀市
			神埼市
16	おつぼ山	佐賀県	武雄市



《朝鮮式山城》

- A 高安城
- B 屋嶋城
- C 大野城
- D 基肄城
- E 鞠智城
- F 金田城
- G * (茨城)
- H * (常城)
- I * (長門城)

《神籠石系山城》

- 1 城山城
- 2 大廻小廻
- 3 鬼ノ城
- 4 城山
- 5 永納山城
- 6 石城山城
- 7 唐原山城
- 8 御所ヶ谷神籠石
- 9 鹿毛馬神籠石
- 10 阿志岐城
- 11 雷山神籠石
- 12 杷木神籠石
- 13 高良山神籠石
- 14 女山神籠石
- 15 帯隈山神籠石
- 16 おつぼ山神籠石

* (山城名) : 所在地不明の朝鮮式山城